

手足の不自由さの疑似体験／車いすの体験

ひじ、ひざのサポーターや重り、手袋などをつけることで、手足の不自由さを疑似体験して動いてみました。そばにいて、ちょっとお手伝いしてくれる人がいることで安心できることがわかりました。

階段の上り下りをしてみると、手すりの有無や支える人の位置の違いが、大きく動きやすさに影響することがわかりました。

また、車いすに乗ることや押すこと、車いすを階上に上げるにはどうしたらいいのかを体験しました。

参加者の声

色々な不自由さを感じ、大変さを感じた中からサポートへの心得を学べたのではないかと思います。



個人に割り当てられるスペースの体験

段ボールとガムテープを使って、一般的に避難所で、一人一人に割り当てられるスペース（一畳分）をつくりました。支える人が近くにいないと動きづらく、床の音は予想以上に響きました。

障がいによっては、介護用の医療機器に電源が必要な方がいたり、つたっていける壁側・移動しやすい通路側がよいということがわかりました。また、車いすの方にはもっと広いスペースが必要なことがわかりました。

このように配慮が必要な方々には、別教室を確保できるとよいのかもしれませんが。

参加者の声

- 本当に狭いスペースに驚きました。
気の合う人と一緒ならともかく、見知らぬ人とは落ち着かないと思いました。
- 床が冷たく、足が悪いので立ち上がりが難しかったです。
- 車いすの利用者なので、自分だけ広いスペースを使うとしたら、周囲の方に気兼ねしてしまうと思いました。

避難所のトイレ体験

実際に、車いすに乗って、トイレに入ってみました。ぎりぎり1台が通れる程度の幅しかなく、車いすが入ると他の方が利用できなくなってしまいます。車いすを回すスペースや手すりも必要ということに気がつきました。

参加者の声

- あまりにトイレが狭いのでびっくりしました。体験できたのはよかったです。
- トイレや階段などももう少し手すりがあると良いなと思いました。



防災グッズ等の展示

西区役所総務課の協力で、防災に関する情報、非常持ち出し袋の中身などを紹介しました。体験の待ち時間など参加者で防災について話す機会になりました。

参加者の声

障がい者がそのまま使える設備や備品が少ないと思いました。

全体を通じた参加者の声

- 障がい者の方々と日頃よりお近づきになっている事が大事。
- 地域でもっと何回も実行してもらいたい。
- 思っていたことと実体験にギャップがあり体験する事が出来てよかった。
- 参加する中でいろんな方がいることに気がついたと話された方がいた。
いろんな立場でいろんなことに困ることがあるということがわかった。
自分と違う障がいの方を知ることができる。
- もっと勉強しないとわからないのではないかと不安を感じた。
- 「私たちに何か手伝えることはありませんか？」と声を掛けてくれた方がいました。今まで子どものことを手伝ってもらうなんて考えた事はありませんでした。でもその言葉で、地域と関わることの大切さに気づきました。